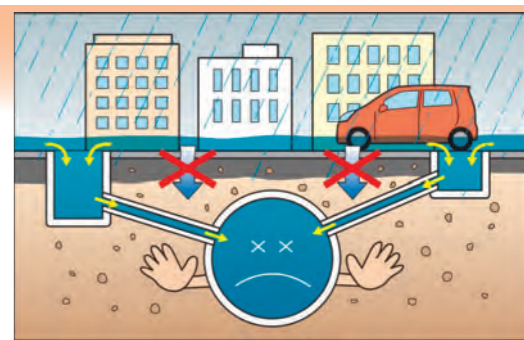


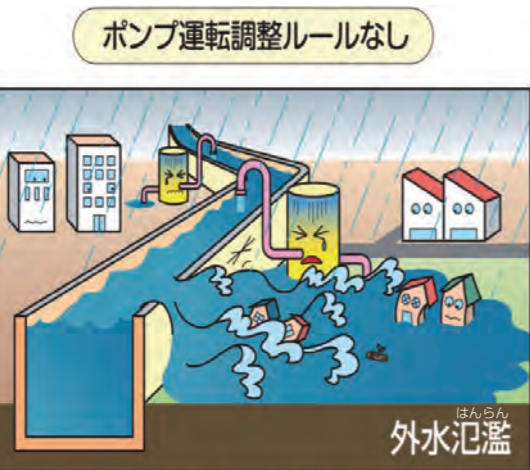
雨の時期への備えを



短時間で大量の雨が降る「集中豪雨」が多発しています。また、急激な都市化で保水力のある土地が減少し、道路がアスファルト舗装で覆われるようになり、降った雨が短時間で下水道管に流れ込んでくるようになりました。そのため、雨水を排水しきれない「内水浸水(内水はらん)」が、発生するようになりました。



ポンプ運転調整(河川水位低下)により破堤を回避



破堤によりはらん水が継続的に町へ流出

被害大

ポンプ運転調整のルールはなぜ必要なのか
寝屋川流域の約4分の3が内水域であることから、降雨時の雨水ポンプでの排水が河川の水位に大きく影響を与えています。
ポンプ運転調整を実施せずに破堤が起ると、川からはらん水(外水はらん)が継続的に町に流出し、被害が大きくなります。
また、堤防の復旧が完了するまでは、下水処理場で各家庭や工場の下水を処理した後

の排水が、制限を受けるなどで排水できなくなることで日常生活に支障がでたり、降雨時に雨水ポンプで川へ排水できなくなり、大規模な内水浸水が発生する危険性があります。
どのように運用されるのか
ポンプ運転調整の実施は、大阪府水防本部長(大阪府知事)が、河川はらんによる甚大な洪水被害を回避するため、最終的な手段としてやむを得ず下水道管理者に指示するものです。市のポンプ運転

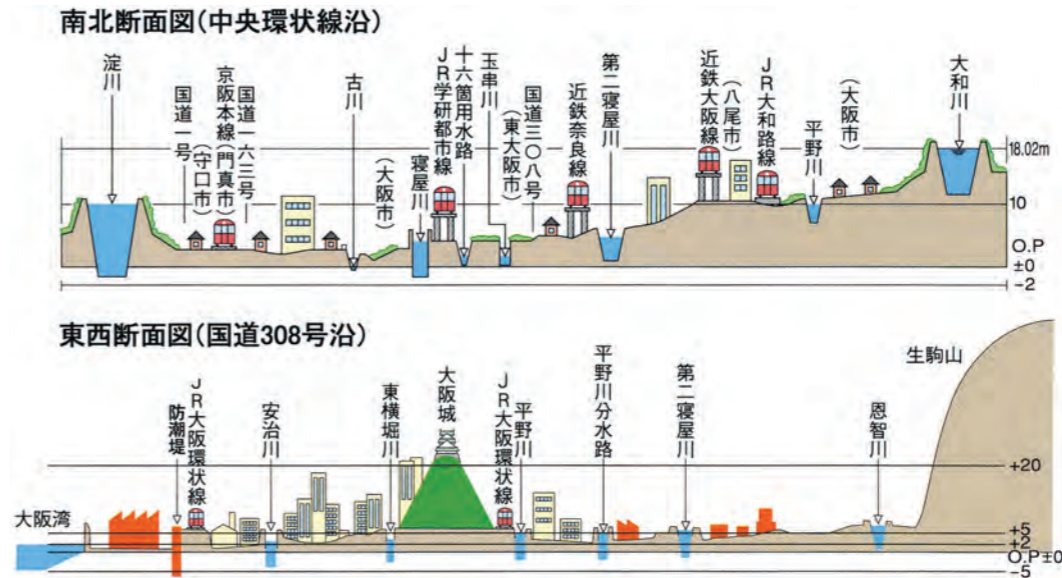
調整の対象となる河川(寝屋川と古川)で、それぞれに水位が設定されています。
浸水時の行動と心得
①情報の収集と自主的避難を
防災行政無線・テレビ・インターネットなどで最新の気象情報・避難情報に注意して、危険を感じたら自主的に避難しましょう。
②助け合って避難を
災害時要支援者など避難行動に時間を要する皆さんに声をかけるなど、隣近所で助け合って避難しましょう。

③避難する前に確認を
避難前には、ガス栓を閉め、テレビなどのスイッチを消し、電気ブレーカーを落としましょう。
④足元に注意
くぼみや溝を確かめるため、長い棒などで足元の安全を確認しましょう。また、避難時はスニーカーを履いてください。長靴は水が入ると危険です。
⑤徒歩で避難を
車での避難は浸水すると動けなくなります。基本的には徒歩で避難しましょう。
⑥2階以上へ避難を
浸水がすでに50cmを上回っているとき(ひざ上まで)が浸水は、非常に危険を伴います。自宅や高い建物の2階以上に避難し、水が引くのを待ちましょう。

ファミリーポンプの貸し出し

市では、浸水被害の発生時に床下に入った水を排水するため、ファミリーポンプの貸し出しを行っています。
注貸出台数に制限があります。

寝屋川流域は、大阪平野の一部で、北を淀川、南を大和川、東を生駒山系、西を上町台地と周りを高い土地に囲まれています。



どのような時に浸水が起きるのか
守口市が位置する寝屋川流域は、大部分が平坦な低地になっています。寝屋川流域の約4分の3は、雨水が自然に川に流れ込まない「内水域」になります。
下水道管で雨水を集め、ポンプにより川へ強制的に排水しています。集中豪雨によって下水道の排水能力を超えるような雨が降った場合には、

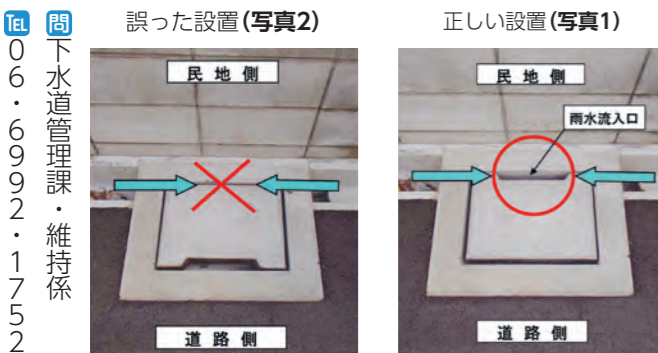
雨水を排除することができなくなり浸水することがあります。
市では、10年に1度発生する降雨(1時間あたり54.4mm)に対応する下水道施設の整備を進めています。
寝屋川流域におけるポンプ運転調整
寝屋川流域は「特定都市河川浸水被害対策法」に基づいて、平成18年2月に府守口市

をはじめ流域関係12市が協力して「寝屋川流域水害対策計画」を策定しました(平成26年8月には、下水道雨水ポンプ施設の操作の規定について追加する変更を行いました)。

雨水ポンプの運転調整は、降雨時に川の水位が上昇による破堤をすることを回避するため、ポンプの排水量を半分減らして運転します。

雨水ますの注意点

大雨時の浸水被害を軽減するため、下水道への入口である「雨水ます」(写真1)について、市民の皆さんのご協力をよろしく願います。
▽雨水ますの上に植木鉢などを置かない
▽ごみや砂などを掃きこまない
▽雨水がスムーズに流れ込むよう、ふたが逆向きでないかを確認する(写真2)
いる場合は、下水道管理課へ連絡してください。



TEL 06-6992-1752
問 下水道管理課・維持係